

## 平成 19 年度事業報告

### 1 会員状況

#### 1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 19 年度末	平成 18 年度末	増 減
1 級	1 1 社	1 2 社	- 1 社
2 級	5 社	6 社	- 1 社
3 級	1 9 社	1 8 社	+ 1 社
4 級	3 6 社	3 5 社	+ 1 社
5 級	8 4 社	8 4 社	0 社
計	1 5 5 社	1 5 5 社	0 社

#### 1.2 個人会員

種 別	平成 19 年度末	平成 18 年度末	増 減
普通会員	1 4 7 1 名	1 5 2 3 名	- 5 2 名
学生会員	1 0 3 名	1 3 5 名	- 3 2 名
計	1 5 7 4 名	1 6 5 8 名	- 8 4 名

#### 1.3 名誉会員 ( 1 4 名 )

阿河 利男 阿部 芳郎 大城 芳樹 大場 健吉 荻野 圭三 北原 文雄 櫻井 洸  
佐々木恒孝 高木 徹 常盤 文克 橋本哲太郎 早野 茂夫 森 昭 渡辺昭一郎

#### 1.4 会員数の推移 ( 個人・法人 )

## 2 会務

### 2.1 総会

第 53 回通常総会を，平成 19 年 3 月 30 日，油脂工業会館で開催した。委任状出席を含めて 97 名の代議員の出席を得て議案を審議した。18 年度事業報告および収支報告，19 年度事業計画および予算案ならびに平成 19 年度役員の選任等について審議され，いずれも原案通り承認・可決された。

ひきつづき，表彰式が行われ，つぎの各氏が表彰された。

日本油化学会名誉会員に，元ライオン株式会社 大場 健吉 氏が推戴された。

日本油化学会功績賞に，元昭和産業株式会社 町田 芳章 氏に贈呈された。

平成 18 年度日本油化学会学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。

- ・学会賞 東京理科大学工学部 好野 則夫 氏
- ・工業技術賞 新日本理化株式会社 藤谷 貫剛 氏ほか
- ・進歩賞 北海道大学大学院水産科学研究院 細川 雅史 氏

つづいて，講演（演題および講師：界面活性剤とその関連から見た化学産業史 永山 升三 氏）が行われ，総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は，第一ホテル日本橋店で開催され，60 余名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し，平成 18 年度一般会計・特別会計決算案および平成 19 年度同予算案，平成 19 年度会長，副会長および常務理事の選任，運営委員，各業務委員長，各支部長，各専門部会長等の選任，日本油化学会名誉会員，功績賞および日本油化学会賞等の選考，平成 21 年度（第 48 回）年会開催地の決定および実行委員長の選任等，重要案件について審議し，決定した。

出席理事 延 72 名，委任状提出理事 延 14 名，出席監事 延 9 名

### 2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会 6 回，運営会議 1 回，名誉会員・元会長との運営懇談会 1 回，支部長連絡会 2 回をそれぞれ開催した。なお，各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	3 回	規格試験法委員会(含小委員会)	6 回
ホームページ委員会	1 回	役員等候補者推薦委員会	2 回
企画・部会統括委員会	4 回	学会賞選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	功績賞推薦委員会	1 回
編集委員会(含 JOS 編集委)	7 回	若手の会委員会	2 回
学術専門委員会	1 回	会員増強委員会	1 回

総務委員会は，海外会員の会費についてドルから円に変え，小切手の受領をやめることにした。また，寄付金の取扱いに関する内規の制定を行った。定款・細則改訂委員会は，メール会議により，細則の改定ほか，研究奨励基金に関する内規の制定，役員報酬規則，同任期規則等の制定を行った。財務委員会は会員増加による財務状況の改善についてシミュレーションを行った。企画・部会統括委員会は，オレオサイエンスフォーラムをひきつづき企画・実施した。JOS 編集委員会は，誌面の変更，紙質・活字の変更，電子版の無料化等について見直し，平成 19 年 1 月号から実施した。規格試験法委員会は，トランス酸の新分析法を確立したほか，基準油脂分析試験法の一部について英文版を作成した。役員等候補者推薦委員会は，次期会長候補者の選出を行い，かつ，内規の改定を行った。本年度は，常設の委員会のほかに，会員増強委員会，教本編集委員会が発足し，それぞれの職務を遂行している。

### 3 事業報告

#### 3.1 本部事業報告

本部主催のセミナーは、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、つぎの5件を行った。フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、基準油脂分析試験法セミナー、界面活性剤評価・試験法セミナー、オレオサイエンスフォーラム。フレッシュマンセミナーのテキストには2005年4月に刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用」および「界面と界面活性剤」を使用した。参加者数は延363名であった。

#### 3.2 支部活動報告

##### (1) 支部委員会等の開催

- ・関東支部 常任幹事会3, 幹事会1
- ・東海支部 常任幹事会3, 支部合同役員会1, 支部将来計画委員会1
- ・関西支部 常任幹事会4, 幹事会3

##### (2) 支部による講演会, セミナー等の行事開催

支部による講演会, セミナー, 交流会等の行事は、延12回開催し、参加者数は延662名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延51名であった。

- |       |      |    |      |      |
|-------|------|----|------|------|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 218名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 167名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 6回 | 参加者数 | 277名 |

#### 3.3 専門部会, 若手の会, マスターズクラブ活動報告

講演会, セミナー, 談話会等の行事は、延25回開催し、参加者数は延1210名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延51名であった。

- |           |      |     |      |       |
|-----------|------|-----|------|-------|
| ・専門部会     | 開催回数 | 18回 | 参加者数 | 1022名 |
| ・若手の会     | 開催回数 | 1回  | 参加者数 | 48名   |
| ・マスターズクラブ | 開催回数 | 6回  | 参加者数 | 140名  |

#### 3.4 日本油化学会誌発行状況

##### (1) 「Journal of Oleo Science」誌 第56巻 第1号~12号 総ページ数 762ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、2007年の英文化率は89%であった。電子版へのアクセス件数は、約8,000件/月に達し、120-130カ国の人々が閲覧している。巻末の図を参照。

掲載内容	報文・ノート・速報	英文	71件	475ページ
	報文・ノート・速報	邦文	9件	76ページ
	総説	英文	5件	54ページ

##### (2) 「オレオサイエンス」誌 第7巻 第1号~12号 総ページ数 954ページ

共通テーマを設定した総合論文の特集号を6回企画し、また会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。

掲載内容	総合論文・総説・入門講座	30件	235ページ
	研究文献抄録	295件	59ページ
	国際油脂情報	163件	68ページ
	会務・会告		313ページ
	オイルコーナー	4件	11ページ

### 3.5 第46回日本油化学会年会

関西支部の協力のもとに、川瀬徳三実行委員長を中心に実行委員会を組織して、準備、開催した。本年会は、昨年ひきつづき会期3日間で開催した。6月にケベック市(カナダ)でJOCS-AOCSのジョイントミーティングが開催されたことで参加者の減少が危惧されたが、一般講演、受賞講演等講演の合計が206件、また、参加者も526名と例年同様の盛況であった。今年は、プログラムの都合でポスターセッションを2日目昼食時に並行して行ったにもかかわらず、外の暑さに負けない熱気あふれる会場であった。実行委員会は、第6回ヤングフェロー賞に中原 広道、伊藤 史典、Burenjargal Munkhjargal の3氏を選考し、エディター賞、インパクト賞およびオレオサイエンス賞の受賞者とともに懇親会において表彰した。なお、AOCS 副会長の Jean Willis 氏が年会の視察もかねて来日され、マスターズクラブランチオンシンポジウムにおいてご講演をいただいた。

期 日 : 平成19年9月6日(木)~8日(土)

会 場 : 京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス

内 容 :

参加者総数	526名
講演件数	206件
・ 受賞講演	3件
・ 日・中・韓ミニシンポジウム	3件
・ 一般講演(口頭発表)	122件
(ポスター発表)	60件
・ 専門部会ランチオンシンポジウム	8件
・ 油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	10件

懇親会 日 時 : 9月7日(金)18時~20時

会 場 : グランドプリンスホテル京都

参加者 : 202名(招待者を含む)

第16回JOCSオイルカップスポーツ大会 : 9月8日(土)

- ・ ボーリング      しょうざんボウル      参加者 23名
- ・ テニス            申込者が少なく中止

エクスカージョン(飛鳥散策:マスターズクラブ関西の協力) 参加者 20名

### 3.6 JOCS-AOCS ジョイントミーティング JM2007

日本油化学会とアメリカ油化学会の合同ミーティングを、5月13日~16日の期間、カナダ ケベック市で開催した。今回は、ISFを含めた3学会合同による初めてのジョイントミーティングとなり、日本油化学会会員のみならず、本ジョイントミーティングに関心ある企業、研究者の参加があり、日本側から150名以上の参加を得た。日米ジョイントセッションは、公式には8セッションであったが、他のセッションにも多くの日本人が参加するなど盛況であった。

同時に、法人会員の協賛を得て、一大イベントとして「日本パビリオン」を展示会場に設けた。本会のブースでは、本会の概要および日本の油脂産業の歴史を展示し、日本食の試食・試飲を行った。また、協賛した法人会員各社はそれぞれのブースで工夫された展示を行い、いずれも好評であった。